



2024年2月27日

各位

会社名 中央発條株式会社
コード番号 5992 東証スタンダード・名証プレミア
代表者 代表取締役社長 小出 健太
問合せ先 総合企画部長 藤田 誠一
TEL 052-624-8550

画期的な原価低減 ～システム開発内製化によるデジタル人財育成～

中央発條株式会社（本社：愛知県名古屋市緑区、代表取締役社長：小出健太）は、社内システム開発の内製化を進めることで、間接部門（スタッフ部門）のデジタルトランスフォーメーションに注力しております。TLSCを活用し業務のムダや効率化を実施したうえで、システム開発内製化を進めております。生産性・開発スピードの向上やシステム構築の柔軟性に寄与し、2023年度間接部門の既存業務40%効率化(対2020年度)を実現いたしました。既にグループ会社へ販売しておりますが、今後は外交販売も視野に入れ引き続き力を入れてまいります。

■内製化システム導入事例

NO.	システム名	主な導入効果
1	購入管理システム・仕訳システム 勤怠システム	・ペーパーレス化、インボイス対応 ・経理・調達・人事業務の効率化(リードタイム短縮、働き方改善)
2	稼働管理システム	・即断即決フォロー ・全工場ライン状況の把握、改善の迅速化
3	工数管理システム	・個人の業務時間の見える化を行い、部単位で分析・改善実施 ・改善実態の見える化 ・社員の働き方意欲向上
4	受注管理システム	・リードタイム短縮 ・グローバルでのリアルタイムな生産指示

■TLSC事例



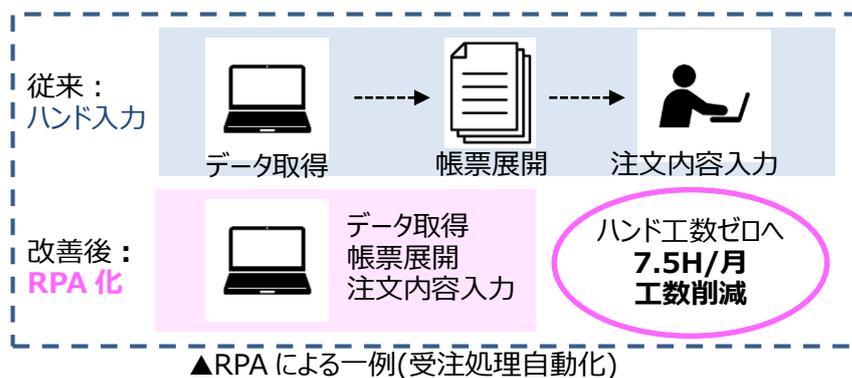
狙い：業務フローの見える化
業務の上流下流の把握による重複廃止、
リードタイム短縮

※TLSC・・・Total Link System Chartの略。工程改善に使用する業務フロー図

またデジタル人材育成のためシステム部門の社員が講師となり、定期的に研修を実施しております。間接部門の社員を対象に単純作業の自動化を推進するRPA教育は、2021年開始以降60名以上が受講し、年間6,000時間以上の工数削減を実現しております。部門をまたぎ仕事のやり方を変革することで、自部署のみならず全社の問題解決に繋げ、業務効率化を図っております。さらに2023年10月頃から社内へChat GPTを導入し、約30名が利用しております。主に文章の要約や添削、校正に活用し、更なる業務効率化を進めております。



▲RPA 教育受講の様子



DXを活用することで働き方改革を進め社員のワークライフバランスを整え、高付加価値業務へシフトし、全社一丸となって中長期経営計画(数値目標: 2027年度売上高1,000億円以上、営業利益50億円(5%以上)、ROE5%以上)の達成を目指して参ります。

以上